

令和2年4月16日
国立大学法人山形大学
東北芸術工科大学
学校法人富澤学園東北文教大学

在山形報道機関各位



山形大学



東北芸術工科大学



東北文教大学

「地域の皆様へのメッセージ」

1. 前文（山形大学・東北芸術工科大学・東北文教大学の共通メッセージ）

若者の行動、各地域からの人の流動など、感染拡大防止に向けて各大学がどう対応するかが、社会的関心を集めています。安全と健康を第一に掲げながらも、大学の社会的使命である教育、研究、地域貢献活動を続けるには、何よりも地域の皆様からのご支援が欠かせません。

この状況をふまえ、山形市に本部を置く山形大学、東北芸術工科大学、東北文教大学の3大学が共同で、大学教育へのより一層のご理解について、地域の皆様へメッセージを発信させていただきます。

◆私たちは、人々の健康を守ることを最優先に考え、大学の使命を果たします。

学生・教職員はもとより、地域に暮らすあらゆる皆様の健康と、安全で安心した生活を確保するために、地域に根ざす高等教育機関として、最大限の努力を続けていきます。

◆私たちは、いかなる場合でも、未来を担う学生への教育を継続します。

学生は未来の地域を支える、大切な存在です。どのような状況下でも、知恵を絞り、あらゆる手段で、熱意ある学生たちへ修学機会を提供し続けます。

2. 山形大学からのお願いと決意

日頃から、山形大学の教育・研究活動へのご理解、学生へのご支援を賜り、感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、私たちが暮らす山形県もまた、大きな動揺と不安に包まれておりますが、山形大学では、あらゆる人の健康を守ることを最優先に考えながら、大学の社会的使命である、教育・研究・社会連携を絶やしてはならないと考えています。

本来であればこの4月は、希望と期待に胸を膨らませた新入生と在学生がキャンパスに集い、1年で最も活気に溢れた季節を迎えていたところでしたが、感染症の拡大防止を何よりも最優先に、入学式中止という苦渋の判断をしました。この前期期間の授業も、原則としてオンラインで行うことを先日決断し、リスクとなる3つの密を避けながら、教育を続けるための努力を、教職員それぞれが続けております。

県内外から進学してきた学生たちには、国や県の指針に従って不要不急の外出や往来を避け、自宅で大学生としての学びに向き合うよう、指示やケアを日々徹底しております。具体的には、課外活動の自粛、クラスターとなりうる場所を避ける行動、体調に不安がある場合の14日間の自宅待機など、様々な対策を講じ、感染拡大の抑制に努めています。

言うまでもなく、学生は私たちの社会の未来を担う大切な人材です。若者たちの行動に社会から厳しい目が向けられる状況に大学としても正面から向き合い、社会の構成員の一人であるという強い自覚を、今一度、学生一人ひとりに促して参る所存です。

今は先が見えないこのパンデミックも必ず収束し、今までの落ち着いた暮らしを取り戻す日がやってくると信じています。危機に直面した際にどう行動するか、学生たちに人間としての成長を呼び掛けるとともに、教職員一同、地域社会の皆様と共に学生を守り育て、この危機を乗り越えて参ります。

この非常な状況においても、どうか引き続き山形大学へのご理解とご支援を賜りますよう、あらためてお願いを申し上げます。

令和2年4月16日
山形大学 学長 玉手英利

3. 芸工大として何をすべきか

日頃より東北芸術工科大学をご支援いただきありがとうございます。

美しい春の香りの広がる山形にも、ついに世界に広がるウィルスの脅威が届いてしまいました。県からは緩やかな休業要請が出されていますが、芸工大は授業を始めなければなりません。大学といたしましては、文科省からの全国大学一斉休止等の強い指示でもない限り、学生への教育活動を継続しなければならないからです。

このウィルスから身を守るにはもう「移動しない、家を出ない、人に会わない」ことしかありません。芸工大は既に発表されている通り5月18日から始業いたしますが、全ての授業を「学生が移動せずに自宅で受講できる」よう、インターネットなどを活用したリモート形式で行うことと決定し、県からの要請にお応えする形の準備を続けております。

全国から学生が集まり、首都圏からの通勤教員やゲスト教員も多いことが芸工大の特徴でしたが、県外からの学生の移動はすでに制限しており、全ての学生の大学への立ち入り、及び首都圏からの教員の移動も停止します。

芸工大は、日頃より県民のみなさんや地域社会に学ばせていただいています。本来ならば、このような窮地にこそ、本学の有する知見や学生たちのアイデア、デザインとアートの力を結集し、芸工大らしい明るさで地域のお役に立ちたいところです。多くの学生たちも何か行動を起こしたいと躍起になっています。しかしながら、学生たちを集結させること自体が憚られ、逆の影響を懸念せざるを得ない状況に、言いようのないジレンマを抱えております。

芸工大生の約1,800人は、この地域に暮らす住民です。高齢化が進むこの山形に多くの学生が住まう状況は、決して芸工大だけの心配事ではありません。

学生に向けては、できるかぎりの感染予防、地域への責任、自己管理の重要性を説き、指導する所存です。なによりも学生とご家族自身も大きな不安を抱えたままの始業ですが、是非とも地域のみなさまからのご協力とご理解をいただきますよう宜しくお願ひいたします。

ウィルス問題収束後の山形を明るく照らすために、東北芸術工科大学は、しばらくじっと力を蓄えておくことにします。

令和2年4月16日
東北芸術工科大学 学長 中山ダイスケ

4. 東北文教大学の取り組み

地域の皆様には日頃より、東北文教大学・東北文教大学短期大学部の教育・研究活動へご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する社会情勢にあって、さまざまな困難や不安の中でお過ごしのことと拝察申し上げます。東北文教大学では、学生・教職員の健康を確保し、学内外への感染を最大限防止しながら、教育と研究を行い、地域社会に貢献していく所存です。

今年度の前期の授業の開始は、当初の予定を遅らせて5月4日といたしました。実施する授業においては、遠隔授業を組み合わせながら、3つの密（密閉・密集・密接）を避けるための十分な対策を施し、学生が安全な環境で学修できるよう努めてまいります。

学生は自宅に留まることを強く求められている中で日々を過ごしており、不安も大きいかと思います。心まで孤立することのないよう、学生には大学の主な施設を閉鎖せず利用できるようにします。もちろん、感染症予防を徹底しながらの利用です。また、一人暮らしの不安や困りごとなど、学生からの相談にも窓口を設けて学生を支援する体制をとっています。大学職員においても、3つの密を避ける措置を講じながら、感染の拡大抑止に努めています。

本学には、教育、保育、福祉の分野の仕事に就くことを希望する学生が多くいます。子どもたちの成長や人々の豊かな人生を支えることができる人材として地域社会で活躍することが強く期待されています。こうした社会の期待に応えるためにも、私たち教職員は、一丸となってこの危機を乗り越え、教育・研究に取り組みます。そして、社会における危機を自分の課題としてとらえ、適切に行動できる人間となるよう学生を育ててまいります。

東北文教大学は、感染症対策に万全を期して取り組むとともに、学生には、地域社会の構成員の一人であるという自覚を促し、地域社会と連携して対応していきたいと考えております。

令和2年4月16日
東北文教大学 学長 須賀一好